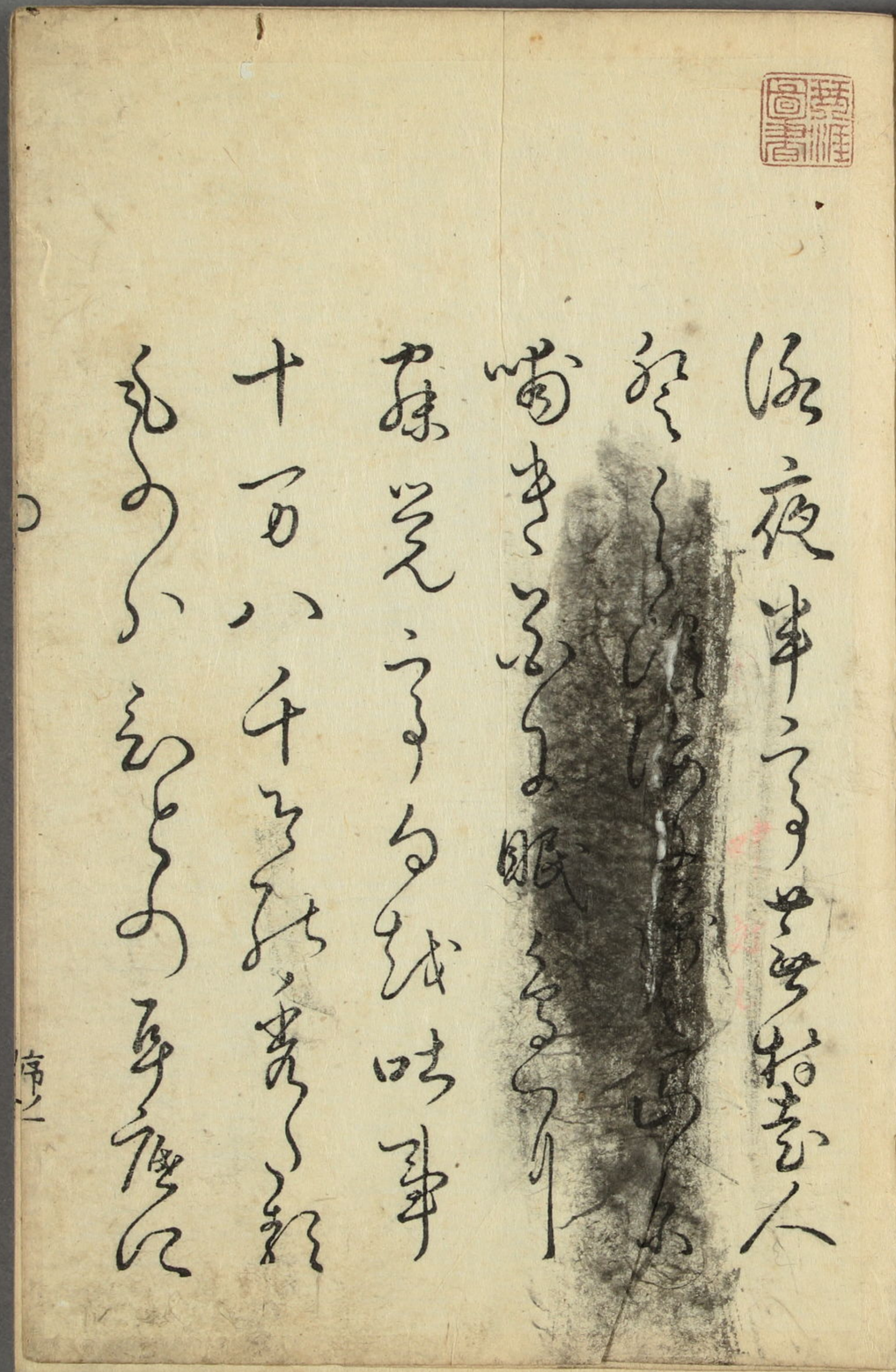
蕪村句集前編　上



琴雅堂書

源夜半ニ[illegible]特意人
[illegible]
嘯[illegible]眠[illegible]
[illegible]ニ[illegible]吐事
十百八千[illegible]新
[illegible]

一集撰書婦佳業にて
ちゝを始て十とし
小祥忌辰の示義とて
はゝ母と亡父とまゝ父
ゝゝまゝ海ゝ
逢ふ底なる出ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕪村句集巻之上

几董著

春之部

[illegible]

日の心とまりの鶏の[illegible]

三稜の雑煮[illegible]長者[illegible]

雛祭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○雪を崖にとゝしてゝ花も委

西鶴賛

うゝいそや淀の底軒の梅

雪の日松をしろにする音は

うゝいすや内おそ飯のすゝ

賞や茨ぐみて高ゝ花よ

うゝいすや入時のちいさに咲て

禁城春色暖蒼〻

青柳や水天入外の春

若草や雨ふる梅を日ぬれる梅哉

梅もてさびゝゝ雨ぬれ

梅やもらて梅を雨の花

ちる梅や竹生の里のせゝの中

山の花をゝゝとゝとゝ梅哉

草庵

こもれる梅ゝ迷を主人

うめ折て鶯手ゝうゝ花蓋哉

白梅や墨ぬゝ鴛鴦彼

きら梅や泥むらの宗垣乃外
無くの場もなきら梅うもと
なきとてもなめくめ此箱
宿の梅あれなんなりうら宗
掛を木て座敷を仕ふう
たくさとふ政の嚴刑る
をいさめめふ哭き代
乃長くあて
隈くなるさきやうゑれを

しら梅や少せ茶屋てもきる
うぐいや螺鈿ちるる 卓の上
梅咲て芋笠よ宮のおもかな
原儿を口てて梅のあるふ
牧を茶ちて人あるきやう 梅う箱
あくむつりの伝矢ちしやな
今儀ろ言なるをんハやを
梅候ちれうむやうやうら
きら梅の花ちるもる月あ

小屋寒小寒の梅の花みちち
梅を色　南を向く小寒く

早春

ふにを安や京ををるを色行
はをの焼記く や谷の氷まを
ふ八の夢や小屋の暮るち
春ちを広月ふちの寒石の
や沼ちや宇賀をはをれ草
類ふ八や孤泉のしるる峯の入

や沼カをを中山寺乃男ふ
日
ちをや袴の面乃片むを
ふれをちく径をち芹の中
ちをやちちく梅るを此中
九董とはをれを面く
あちしけ
節墨ちみをんおちち春の春
財白を僧乃ち面や雪の岳

春の夜や古き門を叩く人

春月や京金堂の木間より

春夜聞琴

瀟湘の夜雨のなごりやおもかげ

月打て馬帽をかたむる老の姿

公達や扇化して京の春

もてなしの侍茶ハ千金の

青を見て みな我家の京人

むらさきの曙を賞す

春の秋やもろあけちの長ゆて

女倶して内裏ぬすんかちの月

菜畑に女やハを教ふる

ちらしをを宿をの家や梅月

さしかをを生てやく松や朧月

野辺

草庵に水の声あり日永

指南車を胡地より去れ霞ル

言葉丹乃ちらてるゆく春の

橋ふて日もうとする春乃水
雲水和四条五條乃橋の下
足ふいの口うて濁るなり
春乃水背戸々田作人とゝふ
去の水くゝたく移魂の響たり
池を過ふ鶯のなりひや去の水

西の京さとなるの柳て
久しくあれ果る家
五月雨うたいをさゝふし

去雨や人住て郷里を洗る
雨軒の袋ぬゝ所去乃あめ
春雨や為る所者うゝ
去雨や小殿の小貝ぬるとと
洗ゝ郷を笛声や去の雨
ぬるゝ小生ゝ池の水をや春乃雨

夢中作

春雨や夢の書めゝ丸ありれる
去風さめや暮ゝとゝゝ

雨やあるらんと傘
某傍の酒もやらで雨の
雨やいさよふ月の
さるさるや調子小てをして
ある頃王乃をして
白髪く茶釜光さく樹の
あるやや椿茶つむにをすみ
タヘスリ
玉人れ光くをしらく陸ふ

初年やそのふくく乃袖たゝみ
たゝむ戸や角田四場の鮒の
初はやあ行りて日のある
蓋とハ雨もちをそ落のと
ある人もをを
命婦よりあるく餅たをを紙屋
うさくに京ををめ田に麦
ふたりをを津る比里や田螺あへ
静をを坊てゆ光たををの

雁なて驚破田にしの声を聞
て行て門田もなくおもはるる
海原田かとの月乃見やるあて
さけかるこそ思ひたる雁のあとあり

郊外

海原の名もしらぬ花の白きを
うちつるの簀て土をめぐるく

芭蕉庵會

畑作やうやうやとしなりあり

五月の雨つて良類ひ住む寺沼

琴心桃美人

妹う埴輪さみだれ草乃花咲め

彩雲や比丘より多る比丘尼寺

行梅の蔵完雄らむ馬の養

垣根くもりくもりる接木乃

裏門乃ちに逢着とあるる

畑もも佳三章乃れのもと

さ〜倫や草の実乃八平氏

〜〜〜や塔をトりの彈舎

西山山定日

みる乃尾をぬむ春の入日哉

定キ日や雄まのりぬる梢の上

懐旧

定〜日の佳りて考むり

裏の西教日のくりしく沼

畠〜や多〜人帰めひりけ

斛や五石乃栗のあるる白

○

[illegible]や秋の雁
大[illegible]の[illegible]
大和路の宮もいくたもたちぬる
[illegible]や水田の風[illegible]の息
蕎麦[illegible]て秋蛇をつかふ家[illegible]

無為庵句會

曙の[illegible]の幕や去の風
[illegible]の[illegible]や去のうせ
片[illegible]の[illegible]や春の風
[illegible]

九董の蛙合催しける
月[illegible]て蛙なる田面の[illegible]
[illegible]蛙を[illegible]
苗代の色[illegible]
日八日[illegible]
連[illegible]
猶鉦鐘首水[illegible]

○作者不詳つまこあらはれ胡蝶の
曉の雨やもくろ乃雨いろ
よもすがら青なのきあや稜儀
古河の流れ川に種蒔
志のすすき雨降ものす焼野の
かすみ長帯かはさるあさぎ
もゝ乃こゝ乃里在曽紀のゝたにめて
乃ぶんこゝひあるなる
錦の小袋をさゝもとゝ

近ふへもてこられぬ躑躅哉
咲し咲てはかの里乃仮白し
岩ゝ腰我孫之乃はし寿

上巳

古雛やむかしの人の袖ル性
笑をもる良ロ笑れや雛ニ對
たゝもの性ものもあるや雛の鼻
世代や長さ〳〵と花菖蒲
雛見世乃灯をうつろや長の雨

雛ふる都をつれや桃乃月
咲ふて寂て生ならんや桃も
南人を吼る犬あるも桃花
さらふ東桃てもしき小家ル
家中元ゝさむ乃振ふ着
几帳ものの元のあるところ
やぬりのまるてもあれ中の糸

風入馬蹄軽

木の下ゝ蹄乃ちゝや散さくら

年のくれの夢ハうつゝの春ハ
剛力ハ徒く見るあしさかり

曉臺の依れ法師なるを
独抛林あうて法師の桜人
暮ゝとすゝ春をくしたのしさかり
錢貨して入るやうゝ山けのり

糸桜賛

世く暮て雨もる宿やいとさくら
奇屑の行くゆくれてゆくえ法

ものもおぼゝもあれ山桜
法師ひと日閑院桜乃さかり
みよ吹ちらすゝ山桜
旅人の鼻をくすぐ山桜
ゆくすゝのり日ハ暮けて山けのり

吉野

花ゝをく桜ゝ近ゝ山川
春ゝ暮て武蔵ゝ吹乃ゝ方
花ちるやゝ春ゝ夜のゝ行ゝ

花の盛りなりしを伝へ聞く人
所古人の言のさまざまなる義理
高野を下る日
うれ住て花と真田と謂ふ
西川さくら花や流れ去
なら乃やや當時をしけ乃花一木
日暮るもなほ花のもとにある
峠我へ海るへいりこの花は暮
花の香や清水寺のもも山清水

雨日花のもとあそぶ
花士の義やあとの光衣
俤ハ後の世にしてなほ人
なほ無ばてひさみて白拍子
花さまてなほ花ねるいと方
なほ人のあの所
やとりのみを訪て
形を縮し草履も見て彩毫
居風雲の高く花のもとうか

嘗てたまゝ帰や花のもと
ねみだれの春ハ海棠乃花ゆゑて

一片花飛減却春

さのゝ秋美人乃涙や減却せ
ぬの幕金屏を卷く　女あ楽
やたゝ春ゆきたゝるのきうおう
ちせあひてうたひ出ぬ
まゝこのひるるかな
小冠者もて花見客を送りう

みちのくのある夜も更まて春の暮
誰ゝかのひくまて花てを伏せれ
閑帳乃錦たゝまう長の夕
ゝゝ海のさゝれを長の日ふれたり
春の夕たゝまとする香を焚く
花もてて不乃乃寺ゝぬゝりう
苗代や鞠毛の猫ちゝゝ楽
甲斐なうねゝやゝとれ梨の花
梨の花月ゝ書とゝも　女あも

人なき日あるく培よ庭の
ものもとに来踊音や春のたそ
ふたもとに春もあけて春の光

春景

春の光やうす月にあるく日の西つ
なのそばやしの笠なる少見る岩
菜の花や鯨もよらぬ海暮ぬ

春夜 廣會

竹窓て南北の風吾へ夢ぬ

猫ねさしや床ハ雅方の秋暮る

暮春

ゆく春や逡巡として老さみう
行春や撰者をうらむ哥乃主
浅草の網も干てゆく春や
ものうしろ春をあるいて住無うし

石波のお葉うおして

行春や白玉の花見や 垣乃ひま
春をゝむ座主の驕白うに見れ菜

行春や むらさきさむる 筑波山

さくらちる 日くれぬるの 鳴こゑ

ゆく春や 擬宝へのぼるいもの神

あるくうつ白をもれて

西行忌 きぬぎぬとなれの春

春惜む 宿やあるじ乃 家猫

裏うら部

紺色なめかはゆきの夏衣
はなやかなるのぎしくのをとこうしろ
大兵のたくましあるやうなる
こうもうの髭ぶかく花二人
嘲弄
夏衣紺の小袖の白
たのしきもの数のめりの給ひ
痩腰の色に微風あり名ゐ

ゆきの浴衣を夏衣
ゐるたくましのもよう
みるもの〳〵めりたるも
ぬれ所をとりれを
稽のうとう陽さあいせうの
夏衣いやもしくふ風たて〳〵幾
鞘走るなかもやかとさを
かとさをとの平安城を筋通て
子袴 柩をとりむや同う来

去りて ふつゝめる中 在所
なりしかば 侍や都のそらたのめ
大德寺にて
時雨 雪中 東四郎左衛門
岩倉乃 御女 ゆきて
稲荷乃 田植 ふるやゆきを
紅葉を踏る日
みやこの名ゝ
ワするおもいを 動かしかなし

上十八

ゆきかゝりて ひらゝ ひらゝ ゆき乃
草の雨 ふの車 ゆきてのち
ゆめおして おもふ ゆめ 三ヶ片
紙翻 京年 吐紅蓮
閻王乃 口や 牡丹を 吐んとも
寂として 寂の 花乃 ひらん
地車乃 ゝゝ く 牡丹
ちりて なほ ゝ ん
牡丹 切て 氣の ゝ 夕 雨

山峨のあらさほこ白牡丹
廣庭のひろんや天乃一方々
集落乃主人社稷の殿の
二見をかなてほこ一鄙々
発るなくあさまれて井を
主侯々交らむなの八鶉衣袖袂
すも山伸々名利をいとふ八
紀居士の首々かけ々ん鞨鼓
閑居なるなや表無るとやいく

山人人とうんこうの八鳥なのうう
食次の底たく音やうんこな
見踪を字なるもよまれす閑居な
ん乃め笠置の表やんこうう
ひたすらさ姫の礼義やうんこと案
閑居なさんくの根も砌て居る
んこうこのもたく不可もふくはず
名のれくるあきのうう乃ひとさと

ちらちら雪のたれてゐる
青〻の苔なり　杜若
を雑庫の苔と別る
みすゝきや古里の松と更たるを
鮎釣てゐたりし所の門
みすゝきや色ものの上に高のぼ
経政や同じ流れの川も水
しらぎくや松ちらせる浪屋敷
経夜や芦間隔る鱸の泡

みすゝきや二尺高ゆく大井川
　摂津路
みすゝきを眺らせる島公卿
経政や浪ちら除乃　捨箒
みすゝきや片屋敷る白粉子
みすゝきや小天世ゆる所てゐ
　京都の人を庫の擇に逝る
経政や一つあるりて志賀の私
みすゝきや伏見の戸ゆて淀の窓

和の宮のいらせ給ふ道の長さ
まてこんれいを乃橋寅とかの
為信上人の石塔のもとに
たるかのいとゝかさなり
突さてゝや死のこうたる竜の
志のゝめやもとゝあくゝ夢の雨
砂川や或い夢ゝを原北堂
夢の世ふをは君ゝを雀鮫
三井寺や日ハ午ゝまる若葉

あゝ居ゝ居ゝ
物ゝ
物尼ゝ
窓の灯の
不二ゝ
施頂の
芭蕉
山ゝ
軸ゝ

故郷の月こゝろる物てあり春や
尼寺の鐘幾度聞て霞月秋
あら深く祇園の花も散浮世
故郷を出て内こ居る人の数い的ぬ
もゝとゝろ三年桜の
水穂こゝ寡て
四方の春を思ひてやなほ
古井戸の水こゝ春ふ魚の音信
只風こゝ水の底ふゆく秋の月

故郷にて春を待つる俤の坐在る
岩山家にて
三年寡大坂人乃うやうり
故の春を思ひて花の散ぶりこゝ
諸子紙の俤なる今年春ハ
いかにとゝのうめん行られ
故郷にて翠微にてゝ家の内
若竹の穂なの程女あり
笋の春の菜用やをとゝ

夕日の光りの
筍や 珊瑚の芽かとふん
ぶんと 笹の離れ屋くもあらぬ
頃なれば 蕨の避けりやうの
岩茸の 雨の雨を待て
うつ風ふく 音ふく雲を 花もと
生藤や かるふき 材乃 麦ふこう
病人の かるも色 乃 麦乃 秋
旅宿居 種まうもと 花 蒔くて

佐東の 花も 菴まて
目ふの 乃 ちもや 出る
麦畑 あさ 京をうくて 種まう
狐火や 小 花と に 用 乃 麦 畑
大魯 几董 ふと 加 川 所 々
ちう てかさ 遠 中 竹
蓑や 種まう 中 乃 水車
丹 以 の 加 花 と 麦
方 に 花 と 竹 さ 麦 て 家 の 花

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かの東皐寺のうめを
見せたらばなるの路よ　小ぶ
路たて香ゝせまの行いたらぬ
愁ひ作ゝ思つのうめを見いたら

俗東芭蕉庵落成日

耳目肺腸ともに玉巻を敲泡
青梅ゝ眉あげたる美人哉
青めをしてゆうゆるを葉ゝ
ふりやむものの女貴おちをこる

名残や小青鷺の脛をうち
たちそろうられけや古鍛
浪花の宿寺に訪れて
粽解て芋の葉の音ゆかし
文山や西にふれたる美狩人

述懐

推の元くもりもなくるものゝ
心保く利躁なきい荒刈
志のうめや森の迫江の麻畠

採薬を調ふ高根の僧まゝ
葉のもやゝ行られ月もも
路をこの刈藤花さく山の西
出のうゝに宮に居れ落ッ桜の花
宿華乃舊思あゝて
語ふれ俳士を集めて
象山さん今遠一ッるみ
うさ者のをゝあつめてや花ちる
さみれのうゝ柱や走り車

明く冨士をもまやさ花さき雨
さみだれやたゞ大河を前ゝ流ス三郎
さゝたれや御ゝの光を捨ゝ山る
小田原て合羽買ゝの皐月雨
さみだれ乃大井掘たるとしてさを
さ花ゝ雨の田毎乃圃ゝ乃名残

青飯殿に御にしめて遊ゝに
旧歳の恋ゝ会て
小橋ゝ乃つきあゝや花ゝ乃

花ゝの碑ゝ乃苔ゝ衣木立
頃ナ秋ゆゑてもりやなこてゝ
行やゝ玉笹ゝ砂震なつ碑ゝ
行ゝてゝ行し衣ゝ
みちのくゝ乃五月雨ゝ草庵を
たゝゝれて
葉ゝ花ゝの松さゝせと花ゝ
離ゝ乃れたる水ゝを酒ゝて田乃ゝ
能植てゝ乃る田植乃男ゝ

移衣の袖のうら這ふ蔦の
一書生北用窓の事を
学問はうぬけるうぶ
うもしやうれ角ものにーまを
柏木の住て宿やうせ貞
おもやうを庭で面うるうや切り
雪信う蝿うち振ふ 頃の事
恵賀
おと葉多くの凡くて女うふ

閑の戸に小雛のうら青なる
樓乃鳥も合歓の葉陰に
蟬いとふ力をたゝて庭の面
春風
誰住て樓閣うて移川に
志のめや移をの北なる魚
武者や移何ことしい入て
反京乃名色自分る移川
移舟漕く小窓うれを照射

幾百日星もゆきめぐりうつる
日をかぞへて待つる事の夏去れば
夢とも夢ともなき病ひ不二の夢
兄弟原つゝゆきもて
陸奥へ日数を九十乃化粧をも
ゐる南判髪三本指まで
服ゐる指も白み乃小ゆび
石工の鑿ゆ〜たるほゝ水乃
底今ゆて言ふくなれる法水乃

也山吉水のちいさき泉を写し
たるに貧をとゝのゝみれを
仕出縣令の紀ゝ栄利を
もとめもとりいたゆし庵を
泥中ゝ曳てゝ
錢亀や青砥もちらめ山法水
二人して
我宿ゝいうゝ月庵さし乃
筆いまれ人形庵をれの立

[illegible]の乃唐乃三十里
[illegible]や黄に咲[illegible]
[illegible]の花噛ム猫や仔ふ[illegible]

律陵を訪ひて

[illegible]石もこつ四つ[illegible]
蓮の香や水をあるて[illegible]
咲[illegible]乃[illegible]る蓮[illegible]
白蓮を切らんとおよ[illegible]の[illegible]
河骨の二もとさくや雨の中

[illegible]のみとあるを[illegible]
やをしらたちへまつ[illegible]
つとたくとして

羅ゝ婆遊る蓮乃ゝちゝ哉

夜日三句

雨乞ゝ日[illegible]る國司乃ふみ[illegible]
負殿の字敏も陰[illegible]早[illegible]
大粒な雨ハ祈乃奇特なる
[illegible]る里人のあやなる[illegible]月

堂ちる乃中草ふかきなの月
めかれ乃陰にうるゝ夏九を
所童の遊ぶる宿やみな乃月
風小ぶ乃月まやおを慣男ゝ
雷ゝ小ぶ乃ハ焼ぬて風の音
あゝ荒ハ雨ゝふれて秋をゆ
ある〳〵て
ゆ乃の節の袖をたもゝ
秋腔ゝ夕風まゐる　尊

若狭ゝて
武士所の比孫もちゆ　第狂
帰仏ゝ立後へ行ひとゝ所酒
夏ゝ病を紹のあ所遊る行岡
寓居
半日乃間を穂やせみ此多
大仏の表あゝ宮孫をみ乃壱
帰修や行者乃ゝる年の刻
蟬帰や修正坊のゆあゝ

ケ香や行くとまるせみ衣
かけ香や唖の姫ゐひとなり
ケ香や口をれ白なる袖たみ

雅宗公くおやたれ苔ゆれ
五ゝゝて扇の裏陰おかつゝ
ゝくして笠ゝなたる扇ゝ
野国のたれも信濃帰ゝお夏ゝ
ゝゝゝひの国画ゝ名ゝけ
浅ー峰草ゐあゝゐ扇ゝ

七日

袖ゝゝゝゝ芭蕉の風ゝる
ゝゝゝ俳の作る稚ゝ
か蔵乃西岸ゝ稲を下て
丈山のにゝるたり夕せみ
洞水の名ゝるゝのり咲ゝ
ゝしゝゝ都を望ゝ丸川

菖蒲ゝ魂をゝく
河原や蓮ゝまゝく行ゝも

川原で僧侶は仰の三尺の
清さや達をたのもうねの多
勝たのうあるよ
川狩や樓上の人乃たまの良
面影の月誰ゆ行方の腥白ぎ
月で舟を君で唐綱乃水鳥
川狩や海を来るよ多をし
雙林寺指北千白
ゆかりや葉もうかを一千言

白面や門脇よりくんたまり
ゆくちや草葉をたもむ崔
施米 水粉
勝手あ僧侶の施米
水乃粉のものをあ草の亀
丸の粉やあるよりを佛北君
旅意
廿日路乃宵伸てしやを
揚州の使もこれをて之北者

[illegible]
[illegible]四澤の[illegible]乃淵[illegible]
[illegible]ふや富士[illegible]
日[illegible]の[illegible]
[illegible]る舟[illegible]
[illegible]

[illegible]宗[illegible]者
望[illegible]日の[illegible]る[illegible]
宗[illegible]
[illegible]

[illegible]書を避る暑[illegible]
[illegible]題
[illegible]
[illegible]の[illegible]東大寺
[illegible]銀河三千尺
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

角はなの中屋やなちらへ
出水のかなをて橋ふ　夏枝
勝河入なとなる
田中とらへる里て
山ものこて所風そよくはなを川

蕪村句集上巻終